

果樹類

農薬取締法上、「小粒核果類」は果実を収穫するもので、「あんず」「うめ」「すもも」および「作物群内の作物間での交配種」が含まれるが、もも類（もも、ネクタリン）およびおうとう（さくらんぼ）は含まれない。

うどんこ病

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [エコピタ液剤](#) — 【果樹類(除かんきつ) 100倍 前日／—】

かいよう病

防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [マスタピース水和剤](#) —(生) 【小粒核果類 1000～2000倍 前日／—】
 - ・ [ムッシュボルドーDF](#) M 1 【小粒核果類(除すもも) 500倍 葉芽発芽前／—】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スターナ水和剤](#) 3 1 【小粒核果類(除すもも) 1000倍 7日／3回】

環紋葉枯病

防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に下記に薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M 7 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日／3回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【小粒核果類 1000～1500倍 21日／3回】
 - ・ [ストロビードライフロアブル](#) 1 1
【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 7日／3回】

黒星病

留意事項

- 1 SDHI剤 (7)、QoI剤 (1 1) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に下記に薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) M 4 【小粒核果類 800～1000倍 21日／3回】
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M 7 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アフェットフロアブル](#) 7 【小粒核果類 2000倍 前日／3回】
- ・ [スクレアフロアブル](#) 1 1 【小粒核果類(除うめ) 2000～3000倍 前日／3回】
- ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【小粒核果類 1000～1500倍 21日／3回】
- ・ [ネクスターフロアブル](#) 7 【小粒核果類 1500倍 前日／3回】
- ・ [オンリーワンフロアブル](#) 3 【小粒核果類(除うめ) 2000倍 前日／3回】

黒粒枝枯病

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【小粒核果類 1000～1500倍 21日／3回】

白紋羽病

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

- ・ [NCS](#) -
【原液3～5ml／1穴 耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15～50cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆 植付前／1回】
- ・ [フロンサイドSC](#) 2 9
【小粒核果類(除うめ) 500倍 50～100 L／樹 土壌かん注 収穫後～開花前(60日)／1回】

すす斑病

防除方法

1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

- ・ [オーソサイド水和剤80](#) M 4 【小粒核果類 800倍 21日／3回】
- ・ [ベルコート水和剤](#) M 7 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日／3回】

灰色かび病

防除方法

1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

- ・ [ベルコート水和剤](#) M 7 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日／3回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [オーシャイン水和剤](#) 3 【小粒核果類(除うめ) 3000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

斑点病

防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オキシラン水和剤](#) M1 M4
 【ベリー類(除ブルーベリー) 600倍 収穫終了後～落葉期／3回】

葉炭疽病 (はたんそびょう)

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【小粒核果類 1000～1500倍 21日／3回】

灰星病

留意事項

- 1 SDHI剤 (7) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフエットフロアブル](#) 7 【小粒核果類 2000倍 前日／3回】
 - ・ [サンリット水和剤](#) 3 【小粒核果類 2000倍 前日／3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【小粒核果類 1000～1500倍 21日／3回】
 - ・ [オーシャインフロアブル](#) 3 【小粒核果類(除うめ) 3000倍 前日／3回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) 3 【小粒核果類(除うめ) 2000倍 前日／3回】
 - ・ [ベルコートフロアブル](#) M7
 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 30日／3回】

紫紋羽病

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。
 - ・ [NCS](#) —
 【原液3～5ml／1穴 耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15～50cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆 植付前／1回】

越冬病害虫

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【落葉果樹 7～40倍 発芽前／—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

切り口及び傷口のゆ合促進

防除方法

- ・ [トップジンMペースト](#) 1

【果樹類(除もも、りんご、なし、かき、マルメロ、かりん、いちじく、かんきつ、おうとう、小粒核果樹、びわ、キウイフルーツ、ぶどう、くり、オリーブ) 原液 塗布 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後/3回】

アブラムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [エコピタ液剤](#) - 【果樹類(除かんきつ) 100倍 前日/ー】
- ・ [オレート液剤](#) - 【果樹類(なしを除く) 100倍 発生初期~前日/ー】
- ・ [粘着くん水和水剤](#) - 【果樹類(除かんきつ) 500倍 前日/ー】
- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A
【小粒核果類 2000倍 前日/3回】
- ・ [コルト顆粒水和水剤](#) 9 B 【小粒核果類 2000~4000倍 前日/3回】
- ・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) 4 A 【小粒核果類(除うめ) 2000倍 7日/2回】
- ・ [ウララDF](#) 2 9 【小粒核果類 2000~4000倍 7日/2回】
- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A
【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000~4000倍 前日/3回】

アメリカシロヒトリ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ダイアジノン水和水剤34](#) 劇 1 B
【小粒核果類(除すもも) 1000~1500倍 21日/2回】

カイガラムシ類

防除方法

- 1 下記の薬剤を散布する。

- ・ [トモノール](#) UNM
【カイガラムシ 落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) 16~24倍 ー/ー】
【カイガラムシ類 落葉果樹(ぶどうを除く) 12~14倍 ー/ー】
- ・ [機械油乳剤95](#) UNM
【カイガラムシ 落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) 16~24倍 ー/ー】
【カイガラムシ類 落葉果樹(ぶどうを除く) 12~14倍 ー/ー】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

—果樹類—

- ・ [アタックオイル](#) UNM 【小粒核果類 50倍 発芽前／—】
- ・ [ハーベストオイル](#) UNM 【小粒核果類 50倍 発芽前／—】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9B 【小粒核果類 2000倍 前日／3回】
- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4A 【小粒核果類(除うめ、すもも) 2000倍 前日／3回】
- ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【落葉果樹 7～10倍 発芽前／—】
- ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13
 【ウメシロカイガラムシ 小粒核果類 2000倍 前日／2回】

カミキリムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

- ・ [バイオリサ・カミキリ](#) —

【1本／1樹 地際に近い主幹の分枝部分等に架ける。 成虫発生初期／—】

カメムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4A

【小粒核果類 2000倍 前日／3回】

キクイムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ガットキラー乳剤](#) 1B

【小粒核果類(除うめ、すもも) 100倍 樹幹から地際部へ散布
 休眠期(落葉後～萌芽前)／1回】

ケムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) 11A 【1000倍 発生初期(前日)／—】
- ・ [エスマルクDF](#) 11A 【果樹類(除りんご) 2000倍 発生初期(前日)／—】
- ・ [カスケード乳剤](#) 15 【小粒核果類 2000～4000倍 14日／2回】
- ・ [フェニックスフロアブル](#) 28 【小粒核果類(除うめ、すもも) 4000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

コスカシバ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [スカシバコンL](#)

【40～100本／10a(8g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け
設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ガットキラー乳剤](#) 1 B

【小粒核果類(除うめ、すもも) 100倍 樹幹部及び主枝に散布
休眠期(落葉後～萌芽前)／1回】

・ [フェニックスフロアブル](#) 2 8【小粒核果類(除うめ、すもも) 4000倍 前日／2回】

サビダニ類

防除方法

1 下記の薬剤を散布する。

・ [石灰硫黄合剤](#) UN【80～200倍 夏期／－】 【20～40倍 冬期／－】

・ [トモノール](#) UNM

【サビダニ 落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) 16～24倍 ー／－】

・ [機械油乳剤95](#) UNM

【サビダニ 落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) 16～24倍 ー／－】

シャクトリムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [エスマルクDF](#) 1 1 A【果樹類(除りんご) 2000倍 発生初期(前日)／－】

・ [バイオマックスDF](#) 1 1 A【果樹類(徐りんご) 2000倍 発生初期(前日)／－】

シンクイムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [ダイアジノン水和剤34](#) 劇 1 B【小粒核果類(除すもも) 1000倍 21日／2回】

・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A

【小粒核果類 2000倍 前日／3回】

ハダニ類

防除方法

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

1 下記の薬剤を散布する。

- ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【80～200倍 夏期／—】 【20～40倍 冬期／—】
【落葉果樹 7～40倍 発芽前／—】
- ・ [スパイカルEX](#) —(生) 【2.4～12ml／樹(約48～240頭) 放飼 発生初期／—】
- ・ [アカリタッチ乳剤](#) — 【果樹類(除りんご、おうとう) 1000～2000倍 前日／—】
- ・ [システムミヤコくん](#) —(生)
【果樹類(施設栽培) 2～5パック／樹 放飼 発生直前～発生初期／—】
- ・ [コロマイト乳剤](#) 6 【小粒核果類 1000倍 前日／1回】
- ・ [スターマイトフロアブル](#) 25A 【小粒核果類 2000倍 前日／1回】
- ・ [ダニゲッターフロアブル](#) 23 【小粒核果類 2000倍 前日／1回】
- ・ [マイトコーネフロアブル](#) 20D 【小粒核果類 1000～1500倍 3日／1回】
- ・ [トモノール](#) UNM
【ハダニ類及びその越冬卵 落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) 16～24倍 —／—】
- ・ [機械油乳剤95](#) UNM
【ハダニ類及びその越冬卵 落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) 16～24倍 —／—】
- ・ [エコピタ液剤](#) — 【果樹類(除かんきつ) 100倍 前日／—】
- ・ [粘着くん水和剤](#) — 【果樹類(除かんきつ) 500倍 前日／—】
- ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【オウトウハダニ 小粒核果類 2000倍 前日／2回】
- ・ [ダニコングフロアブル](#) 25B 【ナミハダニ 小粒核果類 2000倍 前日／1回】

ハマキムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ゼンターリ顆粒水和剤](#) 11A 【1000倍 発生初期(前日)／—】
- ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) 11A 【2000倍 発生初期(前日)／—】
- ・ [エスマルクDF](#) 11A 【2000～3000倍 発生初期(前日)／—】
- ・ [トアロー水和剤CT](#) 11A 【果樹類(除りんご) 500～1000倍 発生初期(前日)／—】
- ・ [ダイアジノン水和剤34](#) 劇 1B
【小粒核果類(除すもも) 1000～1500倍 21日／2回】

チャノコカクモンハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

- ・ [コンフューザーN](#)
【150～200本／10a(52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ [コンフューザーMM](#)

【120本/10a(55g/100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、
または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコンーン](#)

【100～150本/10a(54g/150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

チャハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーN](#)

【150～200本/10a(52g/200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコンーン](#)

【100～150本/10a(54g/150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

ナシヒメシンクイ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーN](#)

【50～200本/10a(52g/200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーMM](#)

【100～120本/10a(55g/100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、
または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーR](#)

【100～120本/10a(36g/100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

ミダレカクモンハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーR](#)

【100～120本/10a(36g/100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコンーン](#)

【100～150本/10a(54g/150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

モモシンクイガ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーN](#)

【150～200本／10a (52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーMM](#)

【100～120本／10a (55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーR](#)

【100～120本／10a (36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

モモハモグリガ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーMM](#)

【100～120本／10a (55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

リンゴコカクモンハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーN](#)

【150～200本／10a (52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーMM](#)

【100～120本／10a (55g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーR](#)

【100～120本／10a (36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコンーN](#)

【100～150本／10a (54g／150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用时には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

リンゴモンハマキ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を使用する。

・ [コンフューザーN](#)

【150～200本／10a(52g／200本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [コンフューザーR](#)

【100～120本／10a(36g／100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、
または挟み込み設置する 成虫発生初期～終期】

・ [ハマキコンーン](#)

【100～150本／10a(54g／150本製剤) 本剤を枝にかける 成虫発生初期～終期】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。